

年 月 日

一般社団法人 20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会
理事長 坂本 雄三 殿

HEAT20 住宅水準 「住宅システム認証」 申請書

申請者 会社名 株式会社 ○○工務店
代表者役職、氏名 代表取締役 ○○ ○○
住所 東京都千代田区神田○-○

HEAT20 会員情報	会員区分	<input checked="" type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
	会員種別:	B-3	会員名: 株式会社○○工務店

標記の認証を受けたいので、関係書類を添えて申請いたします。
この申請書及び付属資料の記載事項は、事実と相違ありません。

記

該当箇所の□にチェックマーク☑を入れて下さい。

1 住宅システムの名称	○○工務店 プレミアム断熱住宅システム			
2 住宅システムの概要と特徴	1)外皮の熱性能 G3水準の高断熱住宅である。断熱材は・・・が主要材料なので、気密性・防露性にも優れている。窓は3層ガラス・・・サッシを使用する。日射遮蔽は庇とルーバーで行う。通風にも配慮して、開口部と廊下の位置を定めている。 2)暖冷房・換気設備の特徴 暖冷房は家庭用エアコンを熱源とする全館空調システム(・・・システム)である。全熱交換換気と空気清浄機もシステムに内包されているので、省エネで且つ健康的である。			
3 構造の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 木造軸組工法 <input type="checkbox"/> 枠組壁工法 <input type="checkbox"/> その他 ()			
4 認証を申請する地域 (省エネ基準の地域区分、県名、市区町村名を適宜使用して、もれがないように申請する)	東京都23区、神奈川県川崎市、神奈川県横浜市			
5 認証を申請する水準 (住宅シナリオ)	<input type="checkbox"/> G1 <input type="checkbox"/> G2 <input checked="" type="checkbox"/> G3			
6 評価計算の方法と指標の計算結果	評価計算のルートと使用した計算プログラム	<input checked="" type="checkbox"/> ルート1	住宅シナリオの計算に使用したプログラム名とVer.をここに記入	
		<input checked="" type="checkbox"/> ルート2 (G1の認証には使えない)	UA値の計算に使用したプログラム名とVer.をここに記入	
	気象データ	地点NO. 360	地点名 練馬	省エネ地域区分 6地域
	住宅シナリオ	暖房期最低室温 (OT)	住宅シナリオ・NEB	概ね13℃を下回らない
			最低OTの計算値	13.2℃
		暖房負荷削減率	住宅シナリオ・EB	約55%削減
平成28年基準暖房負荷 ^{※1} (ルート2)			10.52 GJ/年	
申請住宅システムの暖房負荷 ^{※2}	4.21 GJ/年			
暖房負荷削減率の計算値	60.0 %			
暖房モードについて:※1では該当地域に応じた暖房モードが設定されている。※2では、ルート1の場合は※1と同じモードだが、ルート2ではどの地域でも全館連続暖房モードが設定されている。				

◆担当者の連絡先等

担当者氏名	
所属/部署名/役職名	
郵便番号/住所	
電話	E-mail

◆HEAT20ホームページ掲載

 公開 非公開

※当社団HPへの掲載についての確認です

付属資料

(1) 評価計算で用いた部位の仕様

1) 屋根、天井、外壁、床等の熱貫流率と断熱工法

部位	U:熱貫流率 [W/(㎡・K)] ψ:線熱貫流率 [W/(m・K)]	断熱工法	断熱材の種類と厚さ	
屋根	X.XX	外張り断熱	XPS3種bA ○○mm	
天井	X.XX	吹込み断熱	セルローズファイバー ○○mm	
外壁	X.XX	充填断熱+付加断熱	GWHG32-36 ○○mm+GWHG16-38 ○○mm	
床	外気に接する部分*1	X.XX	充填断熱	EPS1号 2層 (○○mm+○○mm)
	その他の部分			
基礎壁 (新計算法)				
基礎の線熱貫流率 □ 新計算法 <input checked="" type="checkbox"/> 旧計算法	X.XX	吹付け工法	吹付け硬質ウレタンフォームA種 1H ○○mm	

*1 モデルプランにはこの部位はありませんが、実設計で想定される「外気に接する床」の仕様の記載してください。

※基礎の線熱貫流率は建築研究所の技術情報「第三章第三節 熱貫流率及び線熱貫流率」の「6.2土間床等の外周部」(新計算法)又は、同資料の「付録D 土間床等の外周部の熱損失及び基礎壁の熱損失を一体として評価する方法」(旧計算法)の何れかにより計算してください。新計算法による場合、基礎の線熱貫流率は「0.99」を用いてください。新、旧、どちらの計算方法によるか、チェックボックスに☑を入れてください。

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	方位	U:熱貫流率 [W/(㎡・K)]	η:日射熱 取得率 [比率]	サッシの仕様	ガラスの仕様
窓	北	X.XX	X.XX	樹脂	3層複層Low-Eガラス1枚日射取得型 アルゴンガス入り空気層10mm
	南	X.XX	X.XX	樹脂	3層複層Low-Eガラス2枚日射取得型 アルゴンガス入り空気層13mm
	東	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合材料	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型 アルゴンガス入り空気層14mm
	西	X.XX	X.XX	樹脂と金属の複合材料	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型 空気層10mm
ドア		X.XX		金属製高断熱フラッシュ構造、ガラス無し	

窓が仕様・サイズによりU値が異なる場合は、方位別にU値が最も大きいものを記載してください。ドアもU値が最も大きいものを記載してください。

3) 外皮平均熱貫流率 (ルート1に限る)

UA:外皮平均熱貫流率 [W/(㎡・K)]	X.XX
--------------------------	------

(2) 部位の追加仕様と熱性能 (評価計算で用いた仕様以外に申請する仕様がある場合は、以下に記入する。)

※注 追加仕様では、U値が評価計算で使用した仕様のU値以下であること。
また、η値はその仕様のη値以上であること。

1) 部位 (開口部以外) の熱貫流率と断熱仕様

部位	記号	U:熱貫流率 [W/(㎡・K)]	断熱工法	断熱材の種類と厚さ
屋根	R2	X.XX以下	外張り断熱	PF1種2号 ○○mm以上
外壁	W2	X.XX以下	充填断熱+付加断熱	GWHG32-36 ○○mm+XPS3種 ○○mm以上
外壁	W3	X.XX以下	充填断熱+付加断熱	GWHG32-36 ○○mm+EPS1号 ○○mm以上
床	F2	X.XX以下	根太間+大引き間	XPS3号 2層 (○○mm+○○mm以上)

2) 開口部の熱貫流率・日射熱取得率と仕様

種類	記号	U:熱貫流率 [W/(㎡・K)]	η:日射熱 取得率 [比率]	サッシの仕様	ガラスの仕様
窓	G2	X.XX以下	X.XX以上	樹脂	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型
	G3	X.XX	X.XX以上	樹脂	3層複層Low-Eガラス2枚日射取得型 アルゴンガス入り空気層13mm
	G4	X.XX以下	X.XX	樹脂と金属の複合材料	2層複層Low-Eガラス日射遮蔽型 アルゴンガス入り空気層14mm
ドア					

※対策は出来るだけ具体的に示してください。

(3) 気密性の確保と防露仕様について（基本的な考え方や注意している点等について記載してください）

・外壁、屋根、天井においては、防湿気密シートを用いて気密化と冬期の結露防止を・・・。

(4) 遮熱計画について（軒や庇の出、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・窓にはすべて何らかの日射遮蔽措置（ロールブラインドもしくは縦ルーバー）を・・・。

(5) 通風計画について

（開口部の設計、通風経路等、設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・通風性を確保するために、各室には二つ以上の開口部を・・・。

(6) 暖冷房計画について

（設備の設置位置等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・暖冷房の熱源はエアコンとし、全館空調システムを・・・。

(7) 換気計画について（換気の種別等設計時の考え方や住まい方での注意点等について記載してください）

・全般換気は1種換気とし、換気回数は0.5回/h・・・。